

# プレスリリース

## 日・カリブ共同体諸国（カリコム）首脳会合 ～日本の対カリコム政策～

2014年7月28日、トリニダード・トバゴ共和国ポート・オブ・スペイン市にて、安倍晋三日本国総理大臣及びカリブ 共同体諸国（カリコム）首脳参加の下、初の日・カリコム首脳会合が開催された。

カリコム諸国は、自由、基本的人権の尊重、平和、民主主義といった普遍的価値を希求し、国際社会の利益増進に大きな貢献をしてきている。日本は国際協調主義に基づく「積極的平和主義の立場から、地域及び国際社会の平和と安定及び繁栄の確保にこれまで以上に積極的に寄与していく。日本とカリコム諸国は法の支配に基づく海洋秩序を重視し、共に海に囲まれ、海の恵みを受け、海の安全を己の安全とする海洋・島嶼国であり、共通の関心、共通の課題、共通の価値観を有するグローバル・パートナーである。

カリコム諸国は、国際社会に対し、長年にわたり小島嶼国特有の脆弱性に鑑みた支援の必要性を訴えてきた。日本は、自らも小島嶼を有する国家として、かかる脆弱性克服に協力してきた。今般、安倍総理は、改めてカリコム諸国との連帯を強調し、以下の三点を柱とする対カリコム政策の推進を表明した。

第一の柱：小島嶼国特有の脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力。

第二の柱：交流と友好の絆の拡大と深化。

第三の柱：国際社会の諸課題の解決に向けた協力。

### 第一の柱：小島嶼国特有の脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力

- 日本は、小島嶼開発途上国（SIDS）国際会議や国連気候サミットを始め、小島嶼国特有の脆弱性をめぐる国際場裡における議論に、カリコム諸国をはじめとする小島嶼国と共に積極的に参画していく。
- 日本はこれまで、カリコム諸国特有の脆弱性を克服するため、同様の経験に培われた日本の技術や知見を活かし、防災・自然災害対策、環境・気候変動対策、エネルギー、廃棄物処理、水産等の分野で協力を実施してきた。ハイチを除くカリコム諸国に対する今年度の我が国無償資金協力の総額は、過去3年間の水準に比して約6倍に達する見込み。ハイチに対しても、復興と安定のための支援を実施中である。今後とも支援を充実させていく。
- 日本は、カリコム諸国が抱える「小島嶼国特有の脆弱性」に鑑み、一人当たりの所得水準

とは異なる観点から支援が重要と認識。今後の協力のために、まずは調査を実施する。分野としては、例えば、防災、環境等を想定しており、具体的な協力の在り方については、結果を踏まえ検討していく。

### 第二の柱：交流と友好の絆の拡大と深化

- カリコム諸国は、3名のノーベル賞受賞者を輩出し、学術・文学・芸術・音楽・スポーツを始め様々な分野で魅力を発信している。2014年の日カリコム交流年で高まった交流の幅を飛躍的に拡大させ、相互理解と尊敬を醸成したい。
- これまでに300名以上のカリコム諸国の青年がJETプログラムに参加し、英語教育に携わってきている。日本語教育も西インド諸島大学で行われているが、国際交流基金との協力強化やIT技術の活用等を通じて日本語教育支援を推進していく。
- 日・カリコム間の観光も促進していく。このため、日カリブ友好協力基金を活用してカリコム諸国は本年9月の「ツーリズム EXPO ジャパン」に参加予定である。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるカリコム諸国の活躍を期待するとともに、2020年東京大会に向けて、国際貢献策「Sport for Tomorrow」の実施等により、スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げ、カリコム諸国とともにスポーツを通じた友好と相互理解に取り組んでいく。

### 第三の柱：国際場裡における協力

- 日本は、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の立場から、国連外交の強化、軍縮・不拡散、国際平和協力の推進、開発問題や地球規模課題への対応、人間の安全保障の実現等により積極的に取り組む。同じ価値観を共有するカリコム諸国との政策対話を重視し、外交体制も強化していきたい。
- 日本は、国連安保理改革の具体的進展を始めとする国連改革、すべての国が参加する公平かつ実効性のある気候変動に関する新たな国際枠組みの合意に向けた協力、ミレニアム開発目標の達成及びポスト2015年開発アジェンダ策定、防災等、種々の国際課題への対策に関しカリコム諸国との対話と協力を強化していく。また、日本はカリコム諸国とともに、海における法の支配三原則（①国際法に基づく主張、②力や威嚇を用いない、③紛争の平和的解決）を国際社会で推進していきたいと考えている。

以上